

はんごうでごはんをたいたよ

阿賀小学校 三年 切川 翔太

ぼくは、む人とうからだっ出するテレビ番組が大すぎで、家ぞくでよく見てあこがれていました。

「今度の土曜日に、みんなでキャンプに行ってみるか。」

と、お父さんが言ったのをきっかけに、海でごはんを作って食べることになりました。

そして、土曜日。大うらさき公園という海
水よく場でたくさん泳いで遊んだ後、いよいよ
よごはん作りです。

作るりょう理はカレーライスです。ぐざいを切って、ルーを作るのはお母さんと弟がた
ん当することになりました。そして、ぼくと
お父さんは、おいしいごはんをたくたん当で
す。

「ごはんといつても、家にあるすいはんきを
使うわけではありません。」

「はんごう」という、黒くて丸みのある入

れ物を使いました。

二合のお米をはんごうの中に入れ、きれいな水を入れて、手であらうことを三回くりかえし、さい後は目じるしの線まで水を入れてふたをしめました。

火にかけるところからは、やけどしたらあぶないので、ゴツい手ぶくろをつけたお父さんに交たいしました。

さいしよは、火がはんごうのそこにつくくらいだっただけど、ふたから水がグツグツとあふれそうになっただころには、はんごうがほのおにつつまれていました。

それを見たぼくは、へお米がまっ黒こげになっただうしようじよと思ひ、とても心配になりました。

「よしっ、できたぞおー。」

と、お父さんが言うところ、はんごうを五分くらいうらがえしにしておいたあと、ついにふたをあけました。でき上がったごはんは、いつものごはんより何倍もおいしかったです。